

October 10, 2019

【前日の為替概況】ドル円、米中通商協議への期待感から 107.63 円まで上昇

9日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反発。終値は107.48円と前営業日NY終値(107.09円)と比べて39銭程度のドル高水準だった。中国が米国との貿易協定で「部分合意」に前向きと伝わり、「中国は米中貿易摩擦の解消に向けて、米農産物の年間購入を拡大することを提案する」との報道を受けて、米中対立への懸念が和らぐと円売り・ドル買いが先行。ダウ平均が一時260ドル超上昇し、ナイト・セッションの日経平均先物が170円上げたことも相場の支援材料となり、107.63円まで上値を伸ばした。

ただ、「米政権がウイグル族人権侵害で中国の28法人をブラックリストに掲載すると表明したことを受けて、中国政府は交渉進展の期待を弱めている」との報道が伝わると株価の伸び悩みとともに円買い・ドル売りが入り107.39円付近まで下押しした。

9月17日-18日分の米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨では「多くのメンバーはインフレが9月利下げを正当化すると認識」「緩和政策の終了期について議論した」ことなどが明らかになった。

ユーロドルは反発。終値は1.0971ドルと前営業日NY終値(1.0957ドル)と比べて0.0014ドル程度のユーロ高水準。欧州市場では、デギンドス ECB 副総裁が「ECBはさらなる緩和余地を有しているが、現在の金利水準は適切」との見解を示したことで、早期利下げ観測が後退し1.0990ドルまで上昇した。しかし、米10年債利回りが1.59%台まで上昇したことも相場の重しとなり、1.0968ドル付近まで下押しした。

ユーロ円は反発。終値は117.93円と前営業日NY終値(117.33円)と比べて60銭程度のユーロ高水準。10日から始まる米中閣僚級協議を前に、協議進展の期待が強まると米国株価が上昇。投資家のリスク回避姿勢が和らぎ円売り・ユーロ買いが優勢となった。ドル円の上昇につれた買いも入り、一時118.10円と日通し高値を更新した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、米中通商協議への警戒感から上値が重い展開か

本日の東京市場のドル円は、本日からの第13回米中通商協議への警戒感から上値が重い展開が予想される。

ドル円のテクニカル分析では、9日のニューヨーク市場の終値107.48円は、一目・転換線、すなわち、過去9日間の高値108.17円と安値106.48円の中心値となっている。今週のドル円は、7日には「中国側は米国との通商合意に向けて協議の範囲を狭める模様」との報道を受けて106.57円まで下落、9日には、「中国が米国との貿易協定で部分合意に前向き」との報道を受けて107.63円まで上昇しており、転換線107.48円での終値は、相場の逡巡を示している。

トランプ米大統領やナバロ米大統領補佐官(通商製造政策局長)が、中国との『部分合意』は望まない、と述べており、中国側が『部分合意』に前向きでも、「暫定合意」に到達することは難しいのではないだろうか。さらに、週初の米中次官級通商協議では主要な通商問題で進展がなかった、との報道、中国代表団が合意の可能性が低いとして11日中に帰国予定、との報道も懸念材料となっている。

第13回米中通商協議(10-11日)に関するポジティブな報道は以下の通り。

- ・クドロー米国家経済会議(NEC)委員長発言「米中通商協議は進展する可能性」
 - ・中国側は工程表を準備する用意があり、『部分合意』に前向き
 - ・中国側は米国産農産物の輸入を拡大再開する
 - ・トランプ米大統領発言「中国との貿易協定の合意の可能性ある」
 - ・中国政府がブラックリスト掲載への報復措置を「乞うご期待」と警告
- ネガティブな報道は以下の通り。
- ・ナバロ米大統領補佐官(通商担当)発言「中国と重要な合意を得るか、合意なしかどうか」
 - ・トランプ米大統領は「部分合意」「悪い合意」は望まない
 - ・香港問題に関して、米上下両院外交委員会が「香港人権・民主主義法案」を可決、トランプ大統領が人道的な解決策を要望
 - ・中国側は米国との通商合意に向けて協議の範囲を狭める模様
 - ・米政権が少数民族ウイグル人に対する弾圧が終わるまで中国当局者への査証発給を制限
 - ・米政府が中国企業28社を禁輸リスト「エンティティ・リスト」に追加
 - ・米中次官級通商協議では主要貿易問題で進展がなかった

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）
- 08:50 ◇ 9月企業物価指数（予想：前月比0.0%/前年比▲1.1%）
- 08:50 ◎ 8月機械受注（予想：船舶・電力除く民需 前月比▲1.0%/前年比▲8.4%）
- 09:00 ◇ 両宮正佳日銀副総裁、講演

<海外>

- 08:01 ◇ 9月英王立公認不動産鑑定士協会（RICS）住宅価格（予想：▲7）
- 15:00 ◇ 8月独貿易収支（予想：188億ユーロの黒字）
- 15:00 ◇ 8月独経常収支（予想：179億ユーロの黒字）
- 15:00 ◎ 9月ノルウェー消費者物価指数（CPI、予想：前月比0.5%/前年比1.5%）
- 15:45 ◇ 8月仏鉱工業生産指数（予想：前月比0.1%）
- 16:30 ◎ 9月スウェーデンCPI（予想：前月比0.3%/前年比1.3%）
コア指数（予想：前月比0.3%/前年比1.2%）
- 17:30 ☆ 8月英国内総生産（GDP、予想：前月比0.0%）
- 17:30 ◇ 8月英商品貿易収支/英貿易収支（予想：100億ポンドの赤字/10.5億ポンドの赤字）
- 17:30 ◎ 8月英鉱工業生産指数（予想：前月比0.1%/前年比▲0.8%）
◎ 製造業生産高（予想：前月比0.2%）
- 20:30 ☆ 欧州中央銀行（ECB）理事会議事要旨（9月11日-12日分）
- 21:00 ◎ 8月ブラジル小売売上高指数（予想：前年同月比1.9%）
- 21:30 ◇ 8月カナダ新築住宅価格指数（予想：前月比▲0.1%）
- 21:30 ☆ 9月米CPI（予想：前月比0.1%/前年比1.8%）
☆ エネルギーと食品を除くコア指数（予想：前月比0.2%/前年比2.3%）
- 21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数
/失業保険継続受給者数（予想：21.5万件/165.4万人）
- 11日 02:00 ◎ 米財務省、30年債入札
- 11日 01:30 ◎ デイリー米サンフランシスコ連銀総裁、講演
- 欧州連合（EU）財務相理事会（ルクセンブルク）
- 米中閣僚級貿易協議（ワシントン、11日まで）
- 11日 04:00 ◎ ブラード米セントルイス連銀総裁、あいさつ

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

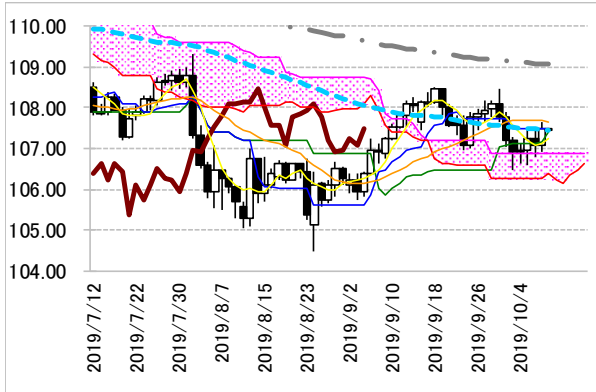
※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

※時間は日本時間

- 9 日 06:16 米ホワイトハウス
「トランプ米大統領は弾劾調査に参加しないだろう」
- 9 日 07:05 カシウカリ米ミネアポリス連銀総裁
「現時点で量的緩和を政策手段の一つとみている」
「米経済がリセッション入りなら金利をゼロにし、その後量的緩和を行う」
- 9 日 07:51 トルコ当局者
「トルコ軍がシリア国境を間もなく越える予定」
- 9 日 21:49 ジョンソン英首相
「引き続き、ブレグジットに関して慎重ながら楽観」
- 9 日 22:46 欧州議会のサッソーリ議長
「英国のブレグジット提案は全く根拠がないもの」
「欧州議会は英国の EU 離脱延期にオープン」
- 9 日 23:07 ユンケル欧州委員長
「英国とのブレグジット協議は継続」
- 9 日 23:47 バルニエ英 EU 離脱・欧州委員会首席交渉官
「現在は離脱案で合意する段階ではない」
「英国の提案は修正が必要」
- 10 日 02:08 トランプ米大統領
「米国はトルコのシリア侵攻を了承していない」
- 10 日 05:14
「(トルコのシリア侵攻)クルド人勢力が一掃されれば、トルコ経済を標的とする」
「(トルコのシリア侵攻)トルコが非人道的に行動すれば制裁上回る措置」
- 10 日 03:03 米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
「多くのメンバーはインフレが 9 月利下げを正当化すると認識」
「緩和政策の終了期について議論した」
「当局者は経済見通しのリスク管理とインフレ目標を指摘」
「数人のメンバーは中期的に景気後退の可能性に関するいくつかのモデルが顕著に増加したと指摘」
「メンバーは貿易摩擦や地政学リスク、世界経済に関連するリスクをより懸念」
「労働市場がけん引する経済全般は堅調」
「数人のメンバーは、利下げは保険の可能性と指摘」

〔日足一目均衡表分析〕

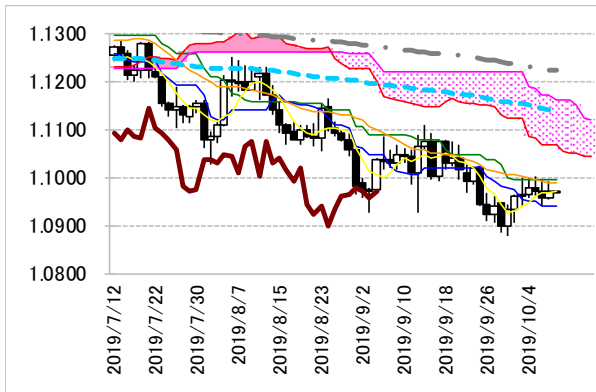


<ドル円=雲の上限を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。トリプル・トップ（108.48円・108.47円・108.47円）で反落したものの、雲が支持帯となり、反発の可能性が示唆されている。

本日は、雲の上限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下回れば手仕舞い。

レジスタンス1	108.47(10/1 高値)
前日終値	107.48
サポート1	106.89(日足一目均衡表・雲の上限)
サポート2	106.37(日足一目均衡表・雲の下限)

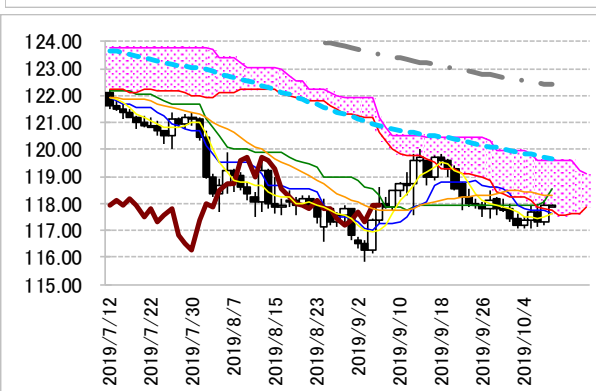


<ユーロドル=10/7 高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回って引けていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。4手連続陽線で反発していたものの、孕み線で反落しており、下落トレンド再開の可能性が示唆されている。

本日は、10月7日の高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1001(10/7 高値)
前日終値	1.0971
サポート1	1.0879(10/1 安値)

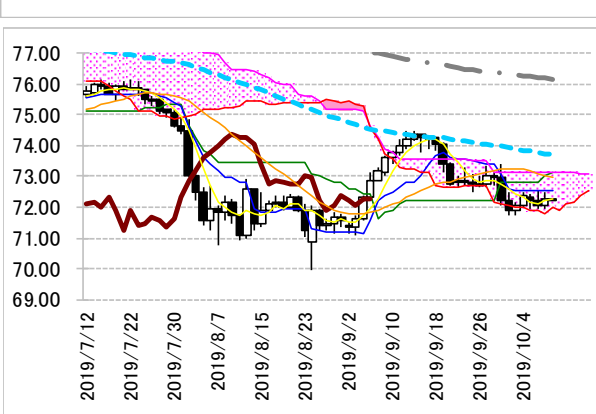


<ユーロ円=10/3・7 日安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の中で引けている（中立要因）ことで、売りシグナルが優勢な展開となっている。しかし、底値圏での抱き線で転換線を上回って引けており反発の可能性が示唆されている。

本日は、10月3・7日の安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	118.55(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	117.93
サポート1	117.08(10/3・7 安値)



<豪ドル円=基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の中で引けている（中立要因）ことで、売りシグナルが優勢な展開となっている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。雲の下限71.99円を下抜けた場合は追撃売り。

レジスタンス1	73.12(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	72.28
サポート1	71.74(10/2・3 安値)

